



Title	＜書評＞「母親はなぜ息子育てが下手か」（診療外科医 五味常明著，ハート出版，980円）
Author(s)	大堀，孝子
Citation	大阪公衆衛生．1994，66，p. 19-19
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/83801
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

『母親はなぜ息子育てが下手か』

診療外科医 五味常明著

ハート出版 980円

図書館でこの題字が目に入り、思わず本を手にとってしまいました。「やはり息子は育てにくいのだろうか？」と。

私たちもよく耳にすることは「男の子はよく下痢をする」「男の子は言葉か遅い」。いや、それ以前でも「男の子は妊娠中も切迫流産などのトラブルがおこりやすい」などと言う人もいる。「うちの子は全くそのような事はない」と言われる人もいるだろうが、私自身も「ウーン」と考えてしまうようなテーマでした。本のなかでは、母親は息子といえども男性の性について理解しにくいためゆがみが出てくることがあると言うようなことが、書かれてあったように思います。けれど、現代の日本では、父親の息子育てが下手であるので 母親だけがそのように言われるというような意味のことも書かれていました。「そうそう 育児はすべて母親の責任ではないのですよ」と言いながらも チラリと自分の息子の顔が思い出されるのは 心のどこかに気になるものがあるからなのではないでしょうか？

普段はつつい甘やかしてしまうが、ハッと「大きくなって冬彦さん（少し前に流行ったマザコンの意味）にしてはいけない」と、いきなり厳しくしたり、一貫性のない育児をしまっているのです。

今は横で 夏に父と二人でキャンプに行き
真っ黒に日焼けした息子が、妹に本を読んで
聞かせているのを見て、「まあいいか。子供
は自分の力で大きくなっていくんだな」と勝
手なことを思っている私は、やはり息子育て
が下手なのでしょう。

(東大阪市西保健所 大堀 孝子)